

# 山形学院報

題字及び「愛」の字は故佐藤利吉先生です

**2011年度主題聖句** 『あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である。』  
[新約聖書・マタイによる福音書5章13~14節]

**2011年度行動目標** 「生徒とともに生き、学び、成長する」  
～生徒一人ひとりを大切に～

学校 法人 山形 学院  
 山形 学院 高等 学校  
 山形 学院 柏葉 会 同窓会

〒990-0039 山形市香澄町3-10-8  
 TEL023-641-4116  
 FAX023-641-4121

山形学院のホームページの紹介  
<http://www.y-gakuin.ac.jp/>  
 E-mail info@y-gakuin.ac.jp



修学旅行 沖縄コース 2011.11.13~17



## 『信・望・愛』を心に刻み

校長 北垣俊一

学院報の巻頭文を書こうとして、私の脳裏に浮かんできたのは過ぎし年の春のことでした。3月2日(水)第63回卒業式を終え、234名の卒業生を送り出しました。卒業式という学校の大変な仕事、責務を、教職員が一致してやり終えた。卒業生たちはそれぞれの進路に新たな一步を踏み出していく。ほっとした気持ちでいました。そこにあの大震災が起つたのです。3月11日(金)午後2時46分、山形も大変な揺れに見舞われました。立っておれないほど揺れでした。太平洋沖を震源とするM9の巨大地震、大津波が東北太平洋側の広い地域に押し寄せて、岩手、宮城、福島の多くの市、町、村が壊滅的な被害を受け、多くの人たちが死に、行方不明になりました。さらに福島第一原発が大事故を起こし、放射性物質を世界中にまき散らしました。電気が復旧し、テレビが繋がり、画面に映し出される災害地の様子に言葉を失いました。

2010年度の終業式ができないまま、4月、2011年度の新学期を迎えました。2011年度は、東日本大震災という未曾有の大自然災

害、「国難」というべき事態の只中で、すべての日本人は過ごしました。

時が経つのは早いものです。大震災から1年、新たな春を迎えるようしています。この冬も、何度も大雪に見舞われ、きびしい季節を過ごしつつ、春の陽光を待っています。

キリスト教の教えに基づき、「信・望・愛」を校訓とする山形学院で育まれた3年生が学び舎から巣立っていきます。3年生たちも一人ひとりが、東日本大震災への思いを心に深く刻んで、この一年を歩んできたことと思います。生徒会長をはじめ、生徒会執行部を担ってくれた3年生は、災害地救援の募金活動を積極的に関わり、災害地ボランティアにも参加して、全校生や教職員を引っ張ってくれました。ささやかではありますが、私たちの山形学院も災害地の人々への思いを共有しながら、この一年歩むことができました。その歩みの中で3年生はそれぞれが山形学院での青春の日々を豊かな色合いでキャンパスに描きえるのではないかと思います。

2011年度の授業アンケートで、「本校に入

学してどうだったのか」という質問に対してアンケート(3年生在籍239名、回答者184名)に答えた3年生の64%が「良かった」と答えています。良かった理由として(1)良い友達に出会えた、(2)良いクラスに恵まれた、(3)良い先生に出会えた。学校生活は勉学(学習)が中心とはいえ、一緒に学ぶ友、仲間の存在、自分の所属するクラスの雰囲気、人間関係、担任や教科担当の先生(教師)のありよう、日々の学校生活、教室での学び、生徒会行事、部活動の練習と一緒に取り組んだ歩みに大きな影響を与えたのです。

大震災後の社会状況の厳しさをしっかりと受けとめながら3年生は卒業後の進路選択の課題と向き合いました。卒業後の進路選択は多様です。三科で学ぶ生徒が、自分の将来について、どんな職業につきたいのか、どんな仕事をしていきたいのか。人は誰でも、自分に与えられたかけがえのない一回限りの人生、自分の能力、才能、有能さを活かして自分らしく生きていきたいと願います。一人ひとりが自分の将来を真剣に考え、自分の求めるところを問いつつ、進路選択をしました。進学、就職、その選択はいずれにせよ、それぞれの生徒の個性や適性に見合った将来への道筋が示されたことだと思います。懐かしい母校への思い出を胸に新たな船出をする。

その前途に神様の豊かな祝福を祈ります。

# 「学校づくり5ヵ年ビジョン」実践2年目は?

2010年から取り組み始めた学校づくり5ヵ年ビジョン「学力をつけ、個性を伸ばし、進路目標を実現できる学校」学校づくりビジョンは自分たちの学校をどのような学校にしていくのかの目標で、すべての教職員がその実践課題を共有し、日常の教育活動に具現化していくものです。ビジョン実践2年目はどうでしょうか。

## 2011年度「具体的取り組み」

1. あいさつ指導と服装指導を継続し、更なる品格ある学校を目指す。
2. 学力向上を目指した授業を展開する。
3. 日頃から生徒に寄り添い、進路決定・実現を支援する。

ビジョン実践の2年目、年度総括がまだこれから行われることですから、全体をまとめて問うことはできないところです。しかし本年度もあと僅かなので、概括的に振り返ってみましょう。

1. あいさつ指導と服装指導を継続し、更なる品格ある学校を目指す。

この点について、毎朝の全校礼拝後の教頭の笠原先生の指導、学年、担任の指導でかなり整ってきたといえます。来客者へのあいさつは良くなっています。本校は男女比が4対6 女子を身だしなみ、髪等をきちんと整えさせることは全校生の雰囲気に反映していくものです。どう評価しているのかを問いたいところです。

### 2. 学力向上を目指した授業を展開する。

今年度の授業アンケートから、すこし生徒側からの動向を見てみましょう。授業に対する満足度 1年61%・2年64%・3年64%となっています。アンケート分析を行った研究企画部は「私たちが、授業に対して誠実に向き合ってきた結果ではなかろうか」とコメントしています。教員の取り組みの成果が出てきています。しかし分かりにくい科目として、**総普1年:数学I・A・情報A、情報1年:簿記、食調1年:数I・食品、総普2年:数II・古典、食調2年:現文、総普3年:古典・英R、食調3年:調論・衛生**が挙がっています。学力向上の観点から分かりにくい科目が挙げられていることについてどう考えたらよいか。学力向上で言えば、教科内容が理解でき、分って、自分の力で問題が解ける、訳せる、説明できるといったことが問われるとすれば、そういう意味合いでの学力がそれぞれの生徒についたのかどうかということになります。本校では「到達度学習」の手法を各教科で取り組んでいます。教科内容に難易度を設定し、必ず理解習得する基礎レベル、より高い教科内容レベルの習熟、それらを定期考査で試験し、それぞれの

生徒がどこまで分かり、できるようになっているかを追求しています。本校入学者の学力は中学校段階で中位以下がほとんどであり、英語、数学を苦手とする生徒が多いのです。そこに学力アップの課題があります。

三科とも国数英の基礎学力をつけ、しっかりと土台づくりをしなければ、2年～3年の発展応用課程での卒業後の進路選択と結びつく教科学習に対応し、就職試験、大学受験を突破できる学力は身につきません。一層厳しい学習指導を生徒に求めていく必要があります。教員は、一層の魅力ある授業、学力をつける授業への工夫が求められます。しかし同時に生徒自身も意欲を持って、学習に取り組む、学校だけでなく、家庭学習もきちんとするような態度が必要です。授業アンケートによると、ほとんどの生徒が家庭学習をしていない現状が浮き彫りにされました。学力をつける課題はきびしいものがあります。しかし取り組まなければなりません。学力アップなしに卒業後の進路選択がままならぬことを、生徒に自覚させて、学力向上への自己責任、自己努力を促し続けなければならない。少なくとも学習指導要領の求める学習内容を理解し、問題解決ができるレベルまで学ばせなければなりません。

### 3. 日頃から生徒に寄り添い、進路決定・実現を支援する。

クラス担任、教科担当、部活動顧問であれ、生徒との関わりを持つ中で生徒のニーズや考えていることを受けとめて、卒業後の進路選択へのアドバイスや支援をしていく機会はあります。本校では俗に言う、「面倒見の良い教師として」生徒の悩みや不安を受けとめて取り組んでいる教員は多いものと思います。本年の3年生の取り組みを検証したいところです

学校ビジョンに対して教職員が同じレベルで共通認識を持っているかといえば必ずしもそうではないかもしれません。組織の改革や実践に対しての成員の関わり方を示すのに2:6:2という数字が使われます。取り組みに積極的な者は2割、まあみんなやっているから自分もという者が6割、消極的、傍観的な者2割ということです。今山形学院は20～30歳代の人たちが増えてきています。今後の山形学院の担い手である若い層の教員たちは、総じて積極的な取り組みを進めていますし、中高年教員も豊かな経験を生かし、それぞれの持ち味を出して教育実践に取り組んでいます。心強い限りです。今日の実践が、明日すぐに実るというわけではありません。地道な取り組みの継続が、やがて花咲く時を迎えるのです。

## 進路指導部より



3年進路研修会 in 国際ホテル

## 進路指導の現状 三進路状況

### 進路指導部部長 西塔雄次

高校入学以来、折に触れ、進路を決めるための心構えや準備などの指導を受け、備えを十分に整えてきた三年生237名が、各自の目標達成に向か、進学・就職の戦いに挑んでき、これから別々の道に進もうとしています。

**就職** 厳しい経済状況の中、非常に大変な戦いを強いられました。しかし、頑張りと粘りで内定した者。希望職種とは違っていても、考え方を変えて別の世界を切り開こうとする者。それぞれの道に向かい、尚一層の頑張りを期待します。

**進学** 多くが推薦入学です。入学後、大変苦労する人が多いと思いますが、やるべき事をしっかりと行えばきっと卒業し、夢に向かえると確信しています。

教職員が一丸となって進路指導に当たっております。皆様も是非、「保護者」として、また「人生の先輩」として、ご協力よろしくお願い致します。  
最後に、未決定者に対して、今後も合格通知を受け取るまで指導を行う覚悟であります。進路の事で何かありましたら、直接学校へご連絡ください。



左から、  
山川亜純、柏倉汐梨、佐藤江里子

# 第49回技能五輪全国大会

第49回技能五輪全国大会(主催:中央職業能力開発協会 静岡県浜松市会場)の日本料理部門に本校生徒(フードデザインクラブ)が出場を果たした。

( 食材の持ち味をどう活かすか、包丁さばきの巧みさなどを審査された。課題の、小鯛活なます姿盛り、牛蒡と鴨の小袖焼き、菊花蕪甘酢漬け、芋寿司手綱巻き、レンコン甘酢漬けに果敢に取り組んだ。 )

## 技能五輪に出て

2年 山川 亜純

私は今回技能五輪に出てたくさんのこと学び、刺激を受けました。

技能五輪の課題は三つあり、鯛の姿造り、小袖焼き、芋寿司でした。大会会場は独特の雰囲気があり、とても緊張しました。しかし、時

間に内に作品を完成させることができて良かったです。また、職人さんの手際の良さ、盛り付け方など、たくさん学べて良かったです。

澤内先生から指導していただいて学んだこと、夏から練習して身に付けた技術を生かせるようこれからも頑張りたいです。大会に出れたこと、先生方にとても感謝しています。ありがとうございました。

## 修学旅行

### 沖縄コース

#### 沖縄修学旅行

担当 奥山 光彦

事前指導の第一回目で言った言葉がある。「約束事を守れば、束縛もなくなり自由が増える。生徒の皆さんも、引率教員も楽しさは倍増する。」現実そんな修学旅行が実現されたと思える。これは、生徒達が約束事を確実に守ったからだ。私はこの度大きなお土産を沖縄から頂いてきた。生徒と先生方との信頼です。南国の青い空



と、海を堪能できたと同時に、私にとって大きな大きな宝物を得た修学旅行でした。

### 韓国コース

#### NANTA



2年 田村 やまと

韓国にはまず、おいしい料理がたくさんありました。ビビンバにうどんすき、シャブシャブに骨付きカルビ……中でもプルコギが特に美味しいかったです。ロッテワールドや学院の姉妹校・京一高校への訪問など、向こうでしかできない体験もたくさんしました。

言葉では表現しにくいですが、修学旅行から3ヶ月経った今でも忘れられない程良い思い出になりました。

強制はしませんが一生に一度は行ってみる事をオアススメします。

### シドニーコース

#### やっぱり日本は最高だ!!

担当 齊藤 卓

総勢65名で出発しました。初めての海外という生徒が多く、不安の中での準備・出発でした。最大の目玉であるホームステイ先での過ごし方は様々で、片言の英語を使いながら、色々な経験をしたようでした。「早くホームステイ先に帰りたい生徒と、早く日本に帰りたい生徒」とに分かれたようでしたが、日本に到着した時には全員が嬉しそうでした。今回、このような貴重な機会が与えられた事に感謝します。



## バスケットボール部

### 県指定になる

#### 県指定の喜び

2年 木村 翔陽

僕たちは、県新人でベスト4に入り県強化指定チームになりました。僕たちがベスト4に入ることができるのも先輩達が今のチームの土台を作ってくれたからだと思います。いつも僕達に気を配ってくれて、引っぱってくれたので成長できたのだと思います。先輩方が作ってくれたこのチームで、県指定にはじないチームになりたいです。



## ソフトボール部

### 【県指定になる】

#### インターハイめざして

#### 挑 战

2年 加藤 あゆみ

私たちソフトボール部は、日々一球を大切に練習に臨んでいます。何よりもソフトボールができること、たくさんの人に支えられていることに感謝の気持ちを忘れずにプレーしています。最後のインターハイ予選まで残りわずかです。一人一役、一人ひとりが自分の役割を果たし、インターハイ出場の切符を勝ち取るまで挑戦し続けます。



## 放送部

### 東北高校放送ヨシテスト出場

#### 2012年全国高等学校総合文化祭県代表

#### 自分の未熟さ

2年 茨木 隼人



私はこれまで放送の大会で賞をもらったことがなく、優勝した時はとても嬉しかったです。しかし、先日行なわれた東北大会では私の力は全くといつてもいいほど通用しませんでした。私はこの東北大会で自分の力はまだまだだと知りました。今の自分に満足せず、6月のNHKコンクールまで、もっと力を磨いていきたいと思います。

## 3年1組 被災地ボランティア

12月17日(土)、3年1組(有志18名)は、担任の大沼敬浩先生のもとに総結集して、宮城県石巻市(旧牡鹿町)の被災地のガレキ処理など、復興整備のボランティアに行ってきました。山形大学、芸工大主催のスマイルエンジンに応募したものでした。



3年 奥山 楓

私は宮城県牡鹿半島で被災地ボランティア活動を行いました。瓦礫撤去や土嚢運び、ごみの分別などの活動を体験して、たくさんの人の協力が必要だと思いました。そして、実際に現地に行きボランティアをすることで震災の状況や、これからの自分の考え方も大きく影響されました。

## キリスト教青年会の 福祉体験

1月5日から1月7日まで2泊3日の行程で、8名の生徒が参加して奥中山ワークキャンプを行いました。岩手県・一戸町の奥中山高原にある「社会福祉法人ナンの園 小さき群の里事業所」に受け入れていただきました。知的障がいを抱える方が生活を送る施設に泊まり込み、交わりをもつ中で、「共に生きること」を学び考える機会を持ちました。

担当 新田 恭平



### 今、私にできること

1年 齊藤 真砂美

私はキャンプを通して、障がいを抱えた人達の心は私達と少しも変わりないと感じました。今、私にできる事は今回の体験を沢山の人に話し、障がいを抱えた人達の事や、奥中山の活動を沢山の人に知ってもらう事だと思います。そして、もっと奥中山のような障がいを抱えた人達が活動できる場所が増えると良いと思いました。

## 「山形学院21世紀教育振興募金」のお願い

### 学院の 教育充実のために 募金にご協力を。

この募金は、生徒の奨学資金、公開講座、その他の教育活動を支えていくために設けております。学校内外にご芳志、ご協力、衷心より感謝申し上げます。

この振興募金から2つの奨学金制度を継続しています。また、公開講座として、料理教室、ハングル学習会を開くことができています。

「21世紀教育振興募金」の充実は、本校の教育活動を一層拡大・充実するものとなります。是非今後とも学校内外の皆様のご協力をお願い申し上げます。

#### I 山形学院学業奨励奨学金制度

対象・2年在籍の生徒で、学校生活、学業に努力し、人物に優れた者。  
各学科より3名。  
奨学金・10万円(返済義務なし)

#### II 山形学院貸与奨学金制度

対象・本学院に在籍する生徒で、各家庭の事情により経済的な協力を必要とする者。  
6~7名。  
奨学金・1ヶ月2万5千円(年間合計30万円)、貸与(卒業後に返済の義務を負う)

#### 献金者ご芳名

(2011年7月1日～2012年2月23日現在)

##### ■「21世紀教育振興募金」

- ・海野英治
- ・全国調理師養成施設協会 東北地区協議会
- ・舟田晴美・伊東栄・熊野俊吉
- ・相田浩之・北垣俊一・戸田実
- ・鈴木明浩・工藤裕子

##### ■「21世紀学校維持募金」

- ・株式会社大沼・山形国際ホテル